



[令和 5 年 11 月 8 日 定例会発表要旨]

乗り越えた天寿 日本除雪機の再建

手稲郷土史研究会会員
平木重雄

1 復員後の就職

1946（昭和 21）年、旧満州より復員後、上砂川東山抗に就職する。1947（昭和 22）年家族が引き上げてきたが、終戦時のことは何も語らず、後に父と姉はソ連軍に包囲され自決と書物で知る。結婚後、三抗の鍛冶工として転勤、従業員有志で生活協同組合を結成、会員 350 名を超え売店を設立、経営は純風満帆。



2 国家溶接係員

1954（昭和 29）年、四抗へ転職。当時、溶接技術が重要視されるようになり上司に溶接免許または技師技術の高揚制を訴え、1959（昭和 34）年札幌菊水溶接学校への通学願いを陳情する。早朝 6 時出勤、午前中の勤務を終えオートバイで砂川駅に疾走、21 時溶接学校実技終了、最終列車で砂川着 24 時、毎日 2 時間ほどの睡眠で 4 か月後、やっと卒業。JIS 試験合格、国家溶接係員に合格。特殊金属の溶接に没頭し国鉄苗穂工機部、琴似工業試験所の指導を受ける。1961（昭和 36）年は登川抗の水力採炭千馬力ポンプの据付と 10 インチ管の溶接に出張、1962（昭和 37）年白山奈井江抗にて採炭場使用の油圧鉄柱破損の修理で溶接指導に、1963（昭和 38）年まだ北海道に導入されていない半導体ワイヤーハネス溶接機の講習を受ける。

3 日本除雪機製作所に入社



炭鉱閉山阻止国会請願デモにて。
前列左端が筆者本人。（画像筆者提供）

職場では機械の製作修理の職務に就き充実しつつも、世相は石炭産業が斜陽になっていく。同年、炭鉱閉山阻止国会請願デモ参加の要請を受け、総評労連の動員支援に参加。1965（昭和 40）年、石炭産業に先行き不透明を感じ会社には申し訳なかったが、日本除雪機製作所に入社。ブロワーの強度改善と製作工数削減に奮闘。

1967（昭和 42）年大型重機クレーンの回転歯が破損し、直す技術者がいないと運び込まれる。取り寄せた特殊棒で溶接部分のガウジングが銃撃音となり騒然となったが低温溶接で難局を乗り切った。この作業で溶接技術が認められ受注が一気に増える。同時に残業や徹夜作業に追われ、従業員の出入りが多くなって行く。環境改善のため親睦会を設立。

4 倒産と再建

1970（昭和 45）年突然会社が不渡りを出し倒産。直ちに会社更生法を申請。納入業者の強制引き取りを社員交替で拒否活動する。日本生命ビル川重出張所を訪ね事情説明を聞く。社員の給与の保障だけはと折衝し何とか 4 月分給与は確保。だが 5 月分の要求が進展せず財界人柴野氏の関与を察知し強制訪問、倒産内容は川重にありと判断し再度交渉、やっと 2 日遅れで 5 月分の給与を全

員に支給。親睦会では交渉無理と判断し全社員を招集して労働組合結成と交渉権の確立趣旨を説明、執行委員長に推薦され3日間の協議で満場一致で採択、日本除雪機労働組合が誕生した。更生法が長引くと発注が困難になる懸念があり即、組合結成を各官庁と組織に届ける。早期解決の代表者は川重と決定、川重本社から営業部長が来社し6月1日、全社員に就業再開の通達を宣言、念願の職場復帰が叶う。後、各社を回り再建報告と今後の協力をお願いする。苦難の道を辿りながら、日本除雪機はその後大企業へと躍進。97歳、我が人生に悔いなし。

昨年9月の定例会(会報誌176号参照)に続き、ご自身の半生を語っていただきました。平木さん、どうもありがとうございました。



編集コラム 雪虫大量発生！

2023(令和5)年10~11月は黒い雪虫、ケヤキアブラムシの大量発生に驚かれた方も多かったのではないのでしょうか？私もある朝、玄関を出ると霧がかかったかのようにケヤキアブラムシが飛び光景を見ました。その日は初めて虫の為に折りたたみ傘をさして外出をしたほどです。

テレビのニュースによると雪虫大量発生の原因は「夏の猛暑と秋の暖かさ」とのこと。これによりケヤキアブラムシが大量繁殖しやすい環境となり、今回の大量発生があったのだそうです。猛暑が雪虫大量発生につながるとは思いませんでした。猛暑回避の為に今から自分にできることはないだろうか、改めて自分の生活や地球の未来を考えた出来事でした。(岡和田)



野村武雄氏が今月お亡くなりになりました。手稲郷土史研究会創設の礎を築き、2018(令和元)年まで理事・相談役として長年、研究会の活動に貢献いただきました。美瑛、手稲、北海道の歴史・文化の研究と保存に携わり、歴史・文化の魅力を人々に伝える功績を残されました。心よりご冥福をお祈り致します。

★手稲郷土史研究会会員募集中！

手稲郷土史研究会では、手稲の歴史・文化に興味があり、一緒に学んでいきたい方の入会を随時募集しています！毎月1回、手稲区内にて定例会を開催し、会員による研究発表や外部講師を迎えての講演等を行っています。定例会では会報誌「郷土史ていね」を配布し、希望する会員へ郵送、メールもお送りしております。年会費3,000円、入会金不要です。

入会は入会申込書、またはメールからお申し込みください。折り返しご連絡致します。

入会申込書から…手稲郷土史研究会パンフレットにあります「入会申込書」に必要事項を記入し手稲郷土史研究会会員へお渡し、またはご郵送ください。

メールから…氏名、住所、電話番号、メールアドレスを記載し、手稲郷土史研究会メールアドレスまでお申込みください。

いただいた個人情報につきましては、当研究会の活動にのみ使用し管理致します。入会についてご質問等ございましたら、お問い合わせください。

次回定例会 ⇒ 発表内容「『私の夫はだれ…』55年前の署名記事から」一ノ宮博昭(手稲郷土史研究会 会員)
2024年1月10日(水) 18:15~ / 手稲区民センター3階 視聴覚室 ※一般の方のご参加は事前の申し込みが必要です。

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第188号 令和5年12月13日発行 発行責任者:沖田紘昭(手稲郷土史研究会 会長) 編集:岡和田夢子
❖〒006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会 ❖TEL 090-3381-4994 ❖FAX 011-682-9874
❖メールアドレス teinekyoudoshi@gmail.com <担当 岡和田>